

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		岡山商科大学			設置者名		学校法人 吉備学園		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業生数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
法学部	法学科	120人	中一種免(社会)	平成3年度	47人	1人	1人	0人	
			高一種免(公民)	平成3年度			1人		
経済学部	経済学科	120人	中一種免(社会)	平成3年度	90人	1人	1人	0人	
			高一種免(公民)	平成3年度			1人		
経営学部	経営学科	200人	高一種免(商業)	平成21年度	/	/	/	/	
			高一種免(情報)	平成21年度			/		
	商学科	200人	高一種免(商業)	平成23年度	/	/	/	/	
入学定員合計		640人	合計		137人	2人	4人	人	
大学名		岡山商科大学(大学院)			設置者名		学校法人 吉備学園		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)				
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業生数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
商学研究科	商学	20人	高専免(商業)	平成7年度	14人	0人	0人	0人	
法学研究科	法学	10人	中専免(社会)	平成10年度	10人	0人	0人	0人	
			高専免(公民)	平成10年度			0人		
経済学研究科	経済学	10人	中専免(社会)	平成10年度	1人	0人	0人	0人	
			高専免(公民)	平成10年度			0人		
入学定員合計		40人	合計		25人	人	人	人	
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成23年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。								

実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成23年6月28日（火）

実地視察大学：岡山商科大学

実地視察委員：山極隆委員、天笠茂委員、狩野浩二委員

■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

- ・大学では3学部4学科で、大学院では3研究科3専攻で教員養成を行っている。

<講評>

- ・教員養成に関する教育課程、教員組織等について、教職課程認定基準等と照らし改善が求められる点があるため、早急に是正すること。また、大学における経営のあり方として、教員養成に対する考え方を見直し、引き続き教職課程を置くのであれば、全学的な教員養成の取り組みを検討すること。

■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

- ・中正な思想を涵養して広い視野を持ち社会に貢献しうる人物、学問と真理とに対して謙虚な情熱と不屈のファイトをもつ人物、産業の現実に関心を持ち、文化的知性を備え、創造的に社会の発展を指向する人物の養成を建学の精神としている。この精神の下、体系的な専門教育により教科の指導力を獲得し、教職科目の学習を通して生徒や教育のあり方を適正に理解し、加えて教職に対する愛着・誇り・一体感をもった情熱とファイトのある教員養成を目指している。

<講評>

- ・教員養成に対する理念が明確化・具体化されているとは言い難い。教職課程に対する全学的な組織を構築するとともに、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように努めること。

■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

<講評>

- ・学則上、教職の科目を学科ごとに開設しており、全学共通科目としても位置づけられていないため、学則の記載を改めること。
- ・平成23年度（今春）に認定を受けているにもかかわらず、すでに専任教員が変わっている科目があった。やむを得ない事情であったとしても、変更の事由があった際に文部科学省に届け出ること。
- ・教職に関する科目と教科に関する科目との連携が図られるよう努めること。

■ 教育実習の取組状況

<状況>

- ・原則、学生が実習を希望する学校へ直接依頼をしており、多くの場合は母校実習の実施となっている。
- ・教職課程担当者による実習校の訪問を行い、実習生の指導にあたっているが、遠方での母校実習の場合には、メールや電話のみでの指導という事例もある。

<講評>

- ・教育実習の実施にあたっては、課程認定大学は、教育実習の全般にわたり、学校や教育委員会と連携しながら、責任を持って指導に当たることが求められる。
- ・大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から、可能な限り大学が所在する近隣において実習先を確保することが望ましいが、学生が出身地の学校への就職を希望する等により、遠隔地における教育実習を行う場合においても、大学が、実習先の学校と連携し教育実習に関わる体制を構築するとともに、公正な評価となるように努めること。

■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

- ・学生が学校現場体験として、岡山市学校支援ボランティアに参加し、クラブ活動の指導を行っている。
- ・ボランティア活動の募集、紹介は行っているが、特段の実績は無い。

■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

- ・1年生に対して教職課程説明会を実施し、教職課程、履修規定やカリキュラムについて説明を行っている。
- ・全般的には教職希望者が少数のため、教職担当教員との対面指導が主な指導体制となっている。

<講評>

- ・履修に当たってのガイダンス、相談体制の充実のより一層の充実をお願いしたい。
- ・教職科目に対する大学としてのPR、教員採用試験情報等の整備・充実を積極的に図ること。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

- ・岡山商科大学教職課程運営委員会において、学内の学科及び学外の関係機関と連絡調整を実施している。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<講評>

- ・教職関係の図書、学術雑誌等がやや不足していると感じられるので、より一層の充実を図ること。

